

過去30年間で日本人のコレステロール高値に対する肥満の影響が減少

—国民健康・栄養調査参加者の疫学研究 NIPPON DATA の結果より—

本学、アジア疫学研究センターの三浦克之センター長が研究代表をつとめる厚生労働省研究班のNIPPON DATA 研究より、日本人のコレステロール高値に対する肥満の影響が減少したことが明らかになり、日本疫学会の学会誌「Journal of Epidemiology」電子版で公開されました。

つきましては、下記のとおり記者説明会を開催しますので、ご参集いただけますと幸いです。なお、お越しいただける場合は、事前に企画（IR担当）課までご連絡をお願いいたします。

○日時：平成30年9月7日（金）10：00～

○会場：滋賀医科大学アジア疫学研究センター2階 会議室

※当日、管理棟前に駐車場をご用意します。（別添「会場案内」参照）

○説明者

厚生労働行政推進調査事業費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）による指定研究

NIPPON DATA 研究班 研究代表者

滋賀医科大学 社会医学講座公衆衛生学部門 教授

アジア疫学研究センター センター長

三浦 克之（みうら かつゆき）

浜松医科大学 健康社会医学講座 助教

柴田 陽介（しばた ようすけ）

《詳細に関するお問い合わせ先》

滋賀医科大学 社会医学講座 公衆衛生学部門
教授 三浦 克之

TEL：077-548-2191

《プレスリリース発信元》

滋賀医科大学 企画（IR担当）課（阪井・三添）

TEL：077-548-2012

e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

POINT

- ・厚生労働省が 1980 年、1990 年、2000 年、2010 年に実施した国民健康・栄養調査（旧国民栄養調査）に参加した全国の 50 歳以上の男女、それぞれ 5,014 人、4,673 人、5,059 人、2,105 人を解析しました。
 - ・過去 30 年間に於いて、適正体重（BMI18.5 以上 25 未満）の人に対して、肥満（BMI25 以上）や痩せ（BMI18.5 未満）の人は何倍コレステロール高値（血清総コレステロール値 220 mg/dl 以上）になりやすいかを解析しました。
 - ・男性では、肥満の人は 1980 年に 2.4 倍でしたが、2010 年には 0.9 倍まで低下していました。
 - ・女性では、肥満の人は 1980 年に 1.4 倍でしたが、2010 年には 1.1 倍まで低下していました。痩せの人は 0.4 倍から 1.0 倍に増加していました。
 - ・1980 年には肥満の人ほどコレステロール高値になりやすく、痩せの人ほどなりにくい傾向でしたが、近年は肥満や痩せとの関連が弱くなっていました。近年は適正体重や痩せの人でもコレステロール高値になる人が増えています。国民の脂質異常症予防のためには肥満対策以外に食事の脂肪分に関する対策が必要と考えられました。
- ※BMI (Body Mass Index) = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

内容詳細

国民健康・栄養調査（旧国民栄養調査）の参加者を対象とした NIPPON DATA（ニッポンデータ）研究において、コレステロール高値（血清総コレステロール値 220 mg/dl 以上）に対する肥満の影響が減少していることが明らかになった。NIPPON DATA 研究は現在、厚生労働省研究班（指定研究）（研究代表者：滋賀医科大学アジア疫学研究センター長 三浦克之）として実施されている。この論文は研究グループの浜松医科大学柴田陽介助教が執筆し、2018 年 7 月 21 日に日本疫学会の学会誌「Journal of Epidemiology」電子版で公開された。

本研究の解析対象者は、厚生労働省が 1980 年、1990 年、2000 年、2010 年に実施した国民健康・栄養調査（旧国民栄養調査）と旧循環器疾患基礎調査に参加した全国の 50 歳以上の男女、それぞれ 5,014 人、4,673 人、5,059 人、2,105 人である。本調査は、日本全国から無作為抽出された 300 地区の一般地域住民を対象に実施されたものである。肥満、痩せ、適正体重の定義は BMI¹⁾がそれぞれ 25.0kg/m²以上、18.5 kg/m²未満、18.5 kg/m²以上 25.0 kg/m²未満とし、コレステロール高値の定義は血清総コレステロール値が 220mg/dl 以上（LDL コレステロールではほぼ 140mg/dl 以上に該当）とした。

1980 年、1990 年、2000 年、2010 年の 30 年間の肥満の人の割合は、男性では 16.3%、21.6%、28.2%、34.1%と上昇し、女性では 26.2%、29.0%、27.1%、27.0%とほぼ横ばいであった。痩せの人の割合は、男性では 9.0%、7.7%、5.2%、3.2%、女性では 8.4%、6.7%、6.6%、6.6%と低下傾向であった。コレステロール高値の人の割合は、男性では 14.3%、26.4%、24.7%、27.4%、女性では 28.9%、47.2%、44.2%、42.3%と 1990 年まで増加しその後ほぼ横ばいであった。

適正体重の人に対して、肥満や痩せの人が何倍コレステロール高値になりやすいかについて、年齢、喫煙状況、飲酒状況、運動習慣の有無、総エネルギー摂取量、飽和脂肪酸・一価不飽和脂肪酸・多価不飽和脂肪酸の摂取量、脂質異常症治療の有無を調整したコレステロール高値有病オッズ比を算出した。男性では、肥満の人は 1980 年に 2.4 倍だったが、2010 年には 0.9 倍まで低下し、痩せの人は 0.3 倍から 0.4 倍になった。女性では、肥満の人は 1980 年に 1.4 倍だったが、2010 年には 1.1 倍まで低下し、痩せの人は 0.4 倍から 1.0 倍へ増加した。

以上の結果より、30年前は肥満の人ほどコレステロール高値になりやすく、痩せの人ほどなりにくかったが、近年はその関連が弱くなっていることが明らかになった。30年前は肥満になりやすい食事が同時に高脂肪などによりコレステロール高値になりやすかったが、近年は体型に関わらず脂肪（特に飽和脂肪）の多い食事を摂る人が増えたため、肥満や痩せとの関連が弱くなった可能性がある。国民の脂質異常症予防のためには、肥満に対する対策だけでなく、適正体重や痩せの人も含めて食事中の脂肪分（飽和脂肪や食事性コレステロールの過剰摂取の防止）への対策も行う必要があると考えられた。

1) BMI (Body Mass Index) = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

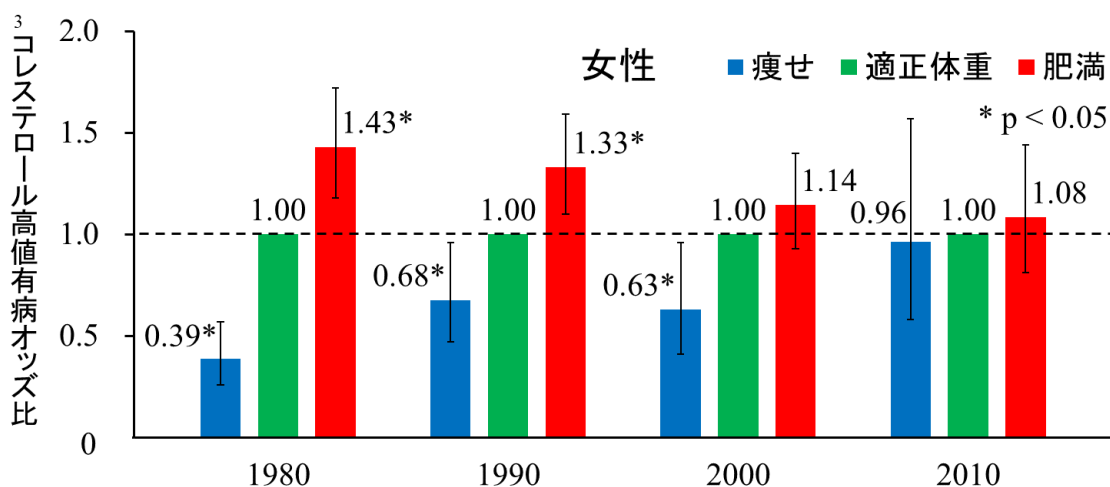
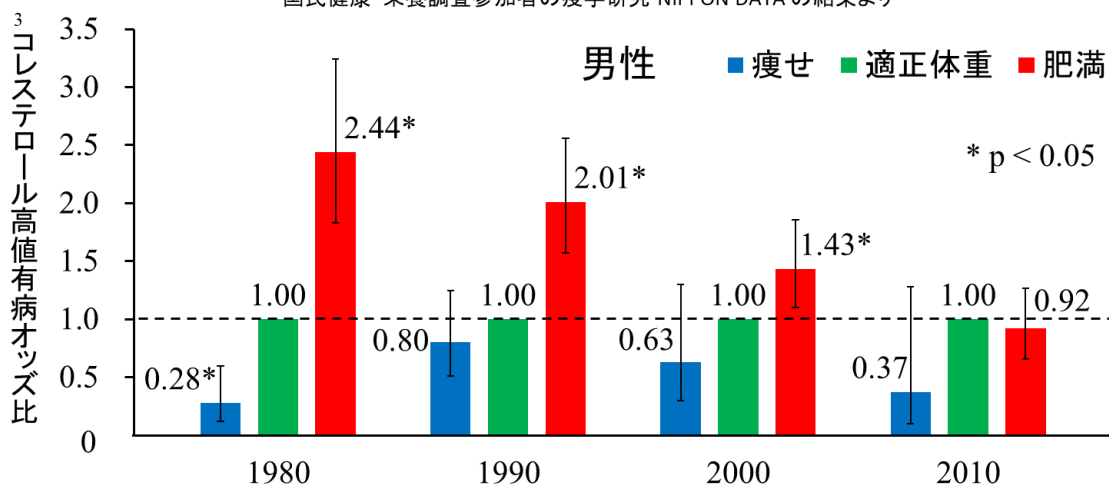
Yosuke Shibata, Toshiyuki Ojima, Mieko Nakamura, Kazuyo Kuwabara, Naoko Miyagawa, Yoshino Saito, Yasuyuki Nakamura, Yutaka Kiyohara, Hideaki Nakagawa, Akira Fujiyoshi, Aya Kadota, Takayoshi Ohkubo, Tomonori Okamura, Hirotsugu Ueshima, Akira Okayama, Katsuyuki Miura, for the NIPPON DATA80/90/2010 Research Group.

Associations of overweight, obesity, and underweight with high serum total cholesterol level over 30 years among the Japanese elderly: NIPPON DATA 80, 90, and 2010.

Journal of Epidemiology 2018; doi: 10.2188/jea.JE20170229

過去30年間で日本人のコレステロール高値¹に対する肥満²の影響が減少

国民健康・栄養調査参加者の疫学研究 NIPPON DATA の結果より



1 コレステロール高値: 血清総コレステロール値220mg/dl以上

2 肥満: BMI25.0kg/m²以上 適正体重: 18.5kg/m²以上25.0kg/m²未満 痩せ: 18.5kg/m²未満

3 コレステロール高値有病オッズ比: 適正体重を基準とした場合の肥満もしくは痩せのオッズ比

(年齢、喫煙状況、飲酒状況、運動習慣の有無、総エネルギー摂取量、飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、高脂血症治療の有無を調整した)

BMI (Body Mass Index) = 体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))

■会場案内（滋賀医科大学）

<記者説明会>

過去30年間で日本人のコレステロール高値に対する肥満の影響が減少

—国民健康・栄養調査参加者の疫学研究 NIPPON DATA の結果より—

○日時：平成30年9月7日（金）10：00～

○場所：滋賀医科大学アジア疫学研究センター会議室（下記③①の建物）

※⑫の建物前に駐車場をご用意いたします。

○キャンパス内案内

